**``なぜ、私たちは、社会から排除され続ける存在なのか？``**

**～やまゆり園障害者殺傷事件を受けて思うこと～**

日本自立生活センター　小泉浩子

●自己紹介　社会から排除され続けたこれまでの経験

・「学校」「職場」集団の中での自分

　　　普通の人たちの中にいる自分は奇妙で滑稽な存在でしかない。

・社会からの扱い

　　　社会からみれば、私たち障害者は、役に立たない。いらない人。

・自立生活センター（JCIL）との出会いからの自分変化

　　　私は「できない人」「何をやってもみんなの迷惑になっている。」そう思ってきけれど…

　　　人の役にも立てる自分との出会い。

●相模原障害者殺傷事件後思うこと

・「障害者はいなくなればいい」という思想は…

　　　だれもが持っている思想であることをまずみなが自覚すること。

・「地域移行」「優生思想反対」を唱えているだけでは…

　　　唱えているだけでは何も動かない。何も変わらない。足りていないことに目を向けていくべき。

・私たちが見捨ててきた人たちがいることの自覚

　　　知的障害、精神障害、難病、分けて考えてはいけない。

・ピープルファーストの仲間たちの暮らし　→「地域生活分科会」資料参考

●皆が多くの人たちとつながりがもてるような社会を目指したい。

・それには、誰かのせいにしていてもだめ。

・親が悪い。健常者が悪い。そのことだけを叫んでいても何も変わらない。

指定発言１　要旨

**「イライラ、精神病院、心の傷」**

ピープルファースト京都　松田光博

ぼくは、2回精神病院に入りました。

不安になって、イライラして、怒鳴ったり、暴力をやりました。「施設にいけ！」と言われました。

バスの運転手が怖いです。「殺すぞ！」と言われました。ぼくは、不安になり大きな声を出します。

隣の家に引っ越してくる人のことが心配です。「出ていけ！」と言われるのが怖いから、ぼくから先に「出ていけ！」と怒鳴りました。

施設や精神病院はぜったいイヤです。

支援者といろいろな取り組みをしています。

イライラする気持ち、心の傷、がんばってること、支援者のこと、しゃべります。